

地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業

「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」とは

文部科学省では、学校安全の充実にハード・ソフトの両面から総合的に取り組む「子ども安心プロジェクト」を平成14年から推進している。その一環として、地域社会全体で学校安全に取り組む体制を整備し、安全で安心できる学校を確立するために、平成17年度より「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」を実施している。文部科学白書（平成17年版）によると、「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」は以下の3つの内容が柱となっている。

- ① 学校で巡回・警備等に従事する学校安全ボランティア（スクールガード）の養成・研修
- ② 防犯の専門家や警察官OBなどの協力の下、地域学校安全指導員（スクールガード・リーダー）による各学校の巡回指導と評価
- ③ モデル地域における実践的な取り組み

なお、文部科学省では、「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」等のソフト面からの取り組みとともに、「地域ぐるみの学校施設防犯・安全点検支援事業」等のハード面からの取り組みも実施している。

「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」の推進

「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」の具体的な支援の内容には、学校安全に関する先導的な取り組みを行うための経費として、防犯情報の共有システムの整備経費、通学路安全マップの作成経費、各種講習会の開催経費等の支援が挙げられている。

なお、各種講習会とは、学校内外の見守り等を行う学校安全ボランティア（スクールガード）養成・研修のため、最新の情報、不審者を発見した場合の具体的な対応方法など実践的な事例等を学ぶことができる「スクールガード養成講習会」等が該当する。

また、「スクールガード・リーダーによる巡回、学校や学校安全ボランティアに対する警備のポイント等の指導、学校安全ボランティアの養成のほか、新たに、各地域における子どもの見守り活動に対する支援を行う」とし、スクールガード・リーダーを

小学校5校に1人設置することを目標としている。

子ども安心プロジェクトの充実

平成21年度までの予算案においては、「子ども安心プロジェクトの拡充」となっていたが、平成22年度の予算案においては「子ども安心プロジェクトの充実」となっており、予算額も増えている。具体的な事業内容としては、「地域ぐるみの学校安全体制整備実践事例集の作成」が挙げられている。先導的な取り組みを集めた実践事例集を作成・配布することで、より実効性のある地域ぐるみの学校安全体制の整備を推進することにつながるとされている。

地域の事例について

先導的な取り組みを全国的に集めた実践事例集については、先述の通り、平成22年度中に文部科学省が作成予定ではあるが、地域ごとの報告書は、多くの地域において既に作成されている。自分の地域、もしくは近隣地域において報告書が作成されているかどうか、もし作成されている場合は、それを入手することが可能かどうか、地元の教育委員会に問い合わせをしてみるとよい。

◆ネット上で閲覧できる参考事例

- 山口県 学校安全・体育課
「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」
主な事業内容と成果
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50500/riskmanage/tiikigurumi.html>
- 京都市教育委員会
平成20年度「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」報告書
地域ぐるみの安心・安全 ～子どもたちをとりまくネットワークづくり～ 桃山南小学校の事例など
<http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/cmsfiles/contents/0000079/79540/houkoku.pdf>
- 広島市 子どもの安全対策推進本部
平成19年度「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」研究報告書
<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/000000000000/1208303147490/>